

## 「四季・植物」48 枇杷

学名 *Eriobotrya japonica* Lindl.

バラ科の常緑中高木

葉（または実）の形が琵琶<sup>ひわ</sup>に似ているところから、名が付いたという説がある。

### 郷土資料から見た「枇杷<sup>ひわ</sup>」のあれこれ

柏崎の枇杷島という地名は古くは琵琶島(琵琶嶋)と書いた。地名の由来は、鵜川のほとりであるため水廻島<sup>みわじま</sup>から来たとも、宇佐美氏の居城が琵琶のような形をしていたから、あるいは三之丸を琵琶嶋と言ったからともいう。江戸時代に枇杷島と書かれるようになったが、「近世枇杷島と改めたる其謂れを詳にせず」(「刈羽郡旧蹟志」)とあるように枇杷の字が使われるようになった経緯は不明である。

葉を枇杷葉<sup>ひわよう</sup>といって漢方では健胃、利尿、鎮咳などに用いるほか、民間では湿疹やあせもの入浴剤として用いる。江戸時代枇杷の葉や肉桂などを煎じた「枇杷葉湯<sup>ひわようとう</sup>」は暑気払いの飲み物とされた。

薬効は広く認められているものの、枇杷の木を屋敷に植えるのを忌む地方は多い。枇杷の木を屋敷に植えると、家に病人が絶えないという俗信は各地にある。

#### 参考資料

「日本大百科全書」	小学館発行	1994	「刈羽郡旧蹟志」(複製版)	山田八十八郎編	1973
「図説 花と樹の大事典」	植物文化研究会編	1996	「日本俗信辞典 動・植物編」	鈴木棠三著	1982
「原色牧野和漢薬草大図鑑」	北隆館発行	1988	「刈羽郡案内」(複製版)	関甲子次郎著	1976